

希少な動植物育むゆりかご、守ろう



■高度成長期に激減
西宮市出身の山野草
専門家で、各地の植物
園の顧問を務める森和
男さん(66)＝三田市＝
は、1960年代前半
の晩夏、芦屋市の奥池
近くで見た風景が忘れ
られない。湿原いっば
いに何百何千のサキノ
ウが日差しに輝き、風
に揺れていた。

六甲山系 里山の再生が急務

かつて阪神間の六甲山系には、希少な動植物を育んだ
湿原が豊富にあった。今やすっかり数を減らし、宝塚市
の丸山湿原など大きなものが数カ所残るにすぎない。湿
原が減った経緯と新たな保全の取り組みを取材した。

(三津山朋彦)

らにとって格好の植物
採集場だった。その後、
住宅や道路、公共施設
などの開発で大部分が
消えた。

一方、宝塚市は早く
から湿原の価値を重視
し、松尾湿原(大原野)
を78年に天然記念物に
指定した。ところが自
然のままを維持しようと
放置すると、樹木が生
い茂り、消滅の危機に
。市や自然保護協会
らが木の伐採、土砂の
掘削などの保全に乗り
出した。4年前にはハ
ツチョウトンボが36年
ぶりに姿を見せ数を増
やしている。

■背景に暮らした姿
植生に詳しい兵庫県
立大名教授の服部保

湿原激減、消滅の危機

① 六甲山系に豊富にあった湿原が激減したが、大きな原因は何ですか？

② 宝塚市の「松尾湿原」が、天然記念物に指定されてから消滅の危機に陥ったのは、なぜですか？

③ 宝塚市や自然保護協会は、湿原復活のために、どのようなことをしたのですか？

④ 記事を読んで、どんなことを思いましたか、感想を書きましょ。

名前

NIEワークシート／小学高学年～高校／理科、総合、朝NIE



阪神間の湿原に生息する(左から時計回りに)ハツチョウトンボ、モウセンゴケ、トキシウ、イシモチソウ、スイラン、ミスゴケ(中央)

押したという。

昔から日本の山は、
大部分が人がまきを得
るための里山で、木は
管理されてまばらだっ
た。花こう岩質の六甲
山系では、はげ山が
点在して水やシル

さん(68)によると、阪
神間の湿原は意外にも
「人の手」が生成を後

ト(細かい砂)が谷あ
いにたまり、湿原が形
成されやすかった。
しかし40年くらい前
からまきが燃料として
使われなくなり、里山
が放置された。六甲山
系では土砂崩れを防

■新たな取り組み
湿原保全のためには
里山の再生が急務だ。
西宮市は、2014
年に甲山周辺の里山復
活プラン「甲山グリー
ンエリア地域連携保
全活動計画」を策定。
08年から、同区域で森
づくりに取り組むコ
ープこうべと共同し
て、木の伐採や湿原
整備を行うボランティア
養成に乗り出してい
る。

阪神北県民局もら
前年から「北摂里山博物
館」事業を進め、丸山
湿原の生態系を調査。
地元住民らと湿原の植
生管理を始めた。2年
前からは湿原の見学会
を開き、服部さんらが
湿原の成り立ちや生息
する生物を紹介する。
多様な生物種の保全
が注目される中、湿原
を守る地道な活動が続
いている。